

特集 その後どのように過ごしていますか？

RISSHOKID'S きらり 岡本



take free
ご自由にお持ち帰りください

2020 * September vol. 105



1 ストーリー

今回ご紹介するのは、2020年3月に竣工、同年4月より開園した保育園「RISSHOU KID'S きらり岡本」。隣接する公園とのつながりを大切に、庭を囲むように木造2階建ての園舎が佇みます。「子どもたちが1日の大半を過ごす場所なので、1分1秒でも長く居たいと思うような空間にしたかったんです」と語るのは、代表の坂本喜一郎先生。袴田喜夫建

築設計室の袴田喜夫さんと共に造りあげた4園目です。袴田さんとの出会いは、坂本先生が以前、他の保育園を見学したことがきっかけ。その園舎が坂本先生の理想とする居心地の良い空間だったことから、設計を手掛けた袴田さんを紹介してもらったのです。すでに空間イメージが共有

できているお二人。「今回はこちらから要望を伝える前に、袴田さんから“こんな空間が欲しいんでしょ”と提案がありました」と笑って振り返る坂本先生。これまでの集大成として、子どもたちが過ごす空間への想いを詰め込みました。



代表の坂本喜一郎さん

ワクワクする迷路みたいな園舎

陽や窓の外の緑など、自然の光や色が照らす優しい空間。「木の手触りや香りなどに、五感が刺激されます。音が必要以上に響かないのもいいですね」と坂本先生が木造の園舎にこだわる理由を教えてくださいました。床には、お寺のような幅が広いフローリングを採用。日本人が大切にしてきた床の文化を教えなくても、子どもたちは本能でくつろいでいるそうです。

吹き抜けの開放的な空間だけでなく、籠り感があったり、子どもたちしか入れなかつたりと、さまざまな雰囲気の空間があるのが園舎の特徴です。「迷路みたい!」と子どもたちのお気に入り。気分に合う居場所を選んで過ごすことで、子どもたちの表情はとても穏やかです。「集中できる空間があれば、気分を高揚させるための音楽などいらないんですよ」と坂本先生。人間らしくその子のリズムで過ごして欲しい——大きな家のような居心地の良い空間には、そんな想いが込められています。

1

2

1.秘密基地のような絵本コーナーでリラックス。2.粘土や絵の具など、制作のための素材が揃ったアトリエ。3.2歳児保育室。階段の先には小部屋があり、思わず階段を上り下りしたくなる空間です。4.トンネル状の廊下はギャラリーに。

3

4



好きなことをとことんできる環境

遊びを創造する 丘がある園庭

RISSHOKID'S きらり岡本は子どもの夢を叶えます。泥遊びや段ボールのおうちなど、家ではできないダイナミックな遊びの数々から好きなことを選びます。「“とことん”がモットーなので、全力で楽しんで欲しいです」と坂本先生は温かく見守ります。



1.部屋いっぱいに建てられた「みんなのおうち」。2.床にはテープの線路が敷かれています。3.0歳児保育室は、2歳児以上の活動場所から離れた静かな環境。4.2歳児保育室でも、思い思いの遊びに熱中!



4

自分らしさを大切に



1.園庭に面した縁台で、風を感じながら食べる給食は格別。2.ホール横のテラスでは、男の子グループが賑やかに食事をとっていました。3.ホールには、テーブルや掘りごたつだけではなく、窓に面したカウンター席もあります。

1
2
3

給食も好きな時に 好きな場所で

RISSHOU KID'S きらり岡本では、食事をとる時間も場所も自由。お腹が空いたら、お気に入りの場所へトレーを慎重に運びます。黙々と食べたい子がいれば、お友達とわいわい食べたい子も。一人ひとりの個性を尊重した保育が行われています。



1.掘りごたつで、くつろげる職員室。2.カウンターで外を眺めながらほっと一息。3.テラスにある露天風呂。延長保育の際に1日を振り返りながら入浴します。帰宅が遅くなっても、子どもも親もゆったり過ごせますね。

1
2
3

気持ちをリセット できる空間

こだわりは園舎の隅々に。2階にあるのは露天風呂とゆったりした職員室。「子どもが好きで保育士になってはいますが、一人の時間が大切です。自分が幸せでないと相手を幸せにできないので」(坂本先生)。見学に訪れる先生が羨ましがるそう。

取材後記

子どもたちは真剣な表情が笑顔かで、遊びに熱中しているのが印象的でした。坂本先生に保育園を見学する際のポイントを伺いましたが、その中の一つが玄関周り。RISSHOU KID'S きらり岡本は玄関から温かな雰囲気で、初めて訪れる人もリラックスできる包容力を感じました。(記:ライター大川)

設計:袴田喜夫建築設計室 袴田喜夫

施工:相羽建設
撮影取材・編集:遠藤・萩野・伊藤・大川・前田・猪股
ainohaバックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>





特集 その後どのように過ごしていますか？

RISSHOKID'S きらり代沢

take free
ご自由にお持ち帰りください

2019 * September vol. 93

特集 その後どのように過ごしていますか?

RISSHOKID'S きらり 代沢

東京都世田谷区 | 木造施設(保育園) | 代表:坂本喜一郎さん・園長:由貴子さん



1

ストーリー

今回ご紹介するのは、2018年12月に完成、翌年4月より開園した保育園「RISSHOKID'S きらり 代沢」。縁側のようなデッキやそこから眺める庭の樹々の様子に、どこか和の雰囲気を感じる趣のある佇まい。「地主さんとの出会いではじめてこの土地を訪れたときに、建物ではなく庭園だけが残っていて、一目見て "最高に良い庭だ!!" と思いました」。そう語るのは、保育園の代表である坂本喜一郎先生。「せっかくならこの土地や空間に合う保育園をつくりたい」——そんな想いを胸に、きらり代沢の建築計画がはじまりました。

設計監理を担当したのは袴田喜夫建築設計室の袴田喜夫さん。お二人の出会いは、喜一郎先生が以前他の保育園を見学した時、空間づくりの概念がご自身の保育の考え方と強く重なると感じ、その建物の設計者が袴田さんだったのだそうです。



2

子どもも大人も心地良い と思える「空間」をつくる

「僕は『施設』という言葉は使わず、必ず『空間』という言葉を使っています」と喜一郎先生。基本的に施設と呼ばれる場は管理が大前提なので、全体が見えるように設計されているそうです。先生たちにとっては都合が良いけれど、子どもたちは見られているのでほっとできる瞬間がない……。「心地良い時間と空間があれば子どもは自然と落ち着きます。それに先生も温和な気持ちで過ごせるので、お互い穏やかになれるんです。『人間らしく自分のリズムで生活できることが、最終的に質の高い保育につながる』。それが僕の中で明確に出ていた答えです」とお話くださいました。

目で見ても手で触ってもあたたかみのある木の空間で、楽しそうに過ごす先生と子どもたち。動き回れる広い場所もあれば、秘密基地のような籠りスペースもあり、それぞれが自分のペースで活動している様子にこちらも穏やかな気持ちになります。「外から内に入ってくるとほっとできる。この空間にいると忙しくて時間が経つのが早いのではなく、心地良くゆったり過ごせて、気づけばあっという間に時間が過ぎている……そんな感じです」と園長の由貴子先生もニッコリ。



喜一郎先生と由貴子先生

- 1.広々と遊べるホール。2.エン
トランスつながる廊下兼遊
び場。3.籠り感のある絵本コー
ナー。4.すやすや眠る子どもた
ち。5.子どもたちのロッカーと2
階につながる秘密の梯子。

1
2
3
4
5



3

「ここでしかできないこと」を楽しむ

一つひとつが 特徴的な場

RISSHOKID'S きらり 代沢の特徴は、空間の一つひとつに意味があること。例えば「振り返りの湯」という半露天風呂や「くつろぎの場」という名の職員室など、とことんやるをコンセプトに、園の先生や子どもにしか体験できることを大事にしています。



1
3
2
4

- 1.入浴しながら先生と子どもがその日の出来事を楽しく振り返れる。延長保育改善策としてのアイディア。2.1階と2階をつなぐ隠れ家のロフト。3.席を固定せず譲り合って座れる掘りごたつ&カウンターテーブル。4.先生たちのための、気持ちをリセットできる場。



職員室…空間デザイン:小泉 誠+Koizumi Studio



- 1.思い思いの場所で聞く、絵本の読み聞かせ。
2.ランチタイムは、その日の気持ちに合わせて自分で席を選べる。3.動物の特徴を想像して体で表現する、音楽と絵本を組み合わせたダンス。

1
2
3

お互い楽しんで 成長できること

子どもたちの日々の自由な発想を応援することはもちろん、先生たちも茶道やダンスなど自身の特技や趣味を活かして子どもたちと接する機会も多くあります。お互いが“楽しい”と思えることを一緒に体感できる、思いやりと学びの力が育まれる場。

取材後記

保育園で大事なポイントって何だろう?と想像すると、最初に子どもたちに関連することが思い浮かびがちですが、それと同じくらいに先生たちにとっても居心地が良いと思える空間づくりが重要なのだと、この場にいて実感しました。「住まいも保育園も職場も、どこにいでも自分らしくいられる時間があって良い」と思えるとホッとしたですね。(記:広報 吉川)



設計監理:袴田喜夫建築設計室／施工:相羽建設／撮影取材・編集:伊藤・吉川
ainohaバックナンバー <http://aibaeco.co.jp/100story/life/>



製作:藤田政利



特集 その後どのように過ごしていますか？

大学セミナーハウス

Dining Hall やまゆり

撮影：北田英治

take free
ご自由にお持ち帰りください

2017 * October vol.70

八王子市にある多摩丘陵の地形を活かし、緑豊かな森林の中に建てられた大学セミナーハウス。長い年月が経ち、周りでビルや住宅地の開発が進む中、この場所だけは昔と変わらない多摩丘陵の自然本来の姿がそのまま残されていました。

今回ご紹介する「Dining Hall やまゆり」は、大学セミナーハウス開館50周年を記念して、建設されたことになった食堂棟です。以前の主な利用者は学生さんたちでしたが、今では社会人や地域の方も増えているそうです。「地域の人たちに、もっと気軽に来てもらえるところに」そんな法人側の想いから敷地全体のバリアフリー化をはじめ、もともと本館内にあった食堂を改修するのではなく、見晴らしの良いこの場所に新しく建てるようになりました。

「Dining Hall やまゆり」の建築に携わられた、設計者の齊藤さんと嶋田さん、大学セミナーハウスの今井さんにお話しを伺いました。

特集 その後どのように過ごしていますか？

大学セミナーハウス

Dining Hall やまゆり

東京都八王子市 | 木造施設 | 大学セミナーハウス食堂棟

※大学セミナーハウスとは
多摩丘陵の豊かな自然を生かし、敷地面積22,400坪の広さに90室(約280名収容)の宿泊室と大小20のセミナー室をもつ宿泊施設付き教育研修施設。大学関係者はもちろん、企業研修、地域活動など幅広く対応している。高等教育機関の補完を担うべく、設立提案者である飯田宗一郎氏を中心に、国公私立大学有志と財界人の協力を得て1965年開館。2015年に開館50周年を迎えた。

撮影:北田英治

永く使い続けられる施設へ



撮影:北田英治



地域の木材と 地域の職人さんの手でつくる

空間全体を包み込むような木のぬくもりを感じる食堂内。遠くの景色を眺めながら食事ができるテラス席や、調理師さんたちの顔が見える活気のある厨房も魅力の一つです。



明るい光が差し込む爽やかな食堂内。利用人数によって机を並べ替えたりパーテーションで仕切ることも可能です。

「『Dining Hall Yamayuri』は、地元の多摩産材を使って、地域の職人さんたちと一緒につくりました。建物を永く使い続けてもらえるように、伝統的な木造技術を用いて、職人さんたちの手でメンテナンスができるこことを大事にしようと考えたんです」と齊藤さん。今までコンクリートでつくられてきた大学セミナーハウ

スの建築ですが、これからまた50年後の時代の変化に寄り添っていくための新しい提案、それが"木造施設"という選択でした。また、新しく変わる部分もある一方で「多摩丘陵の地形を活かした建築」という吉阪隆正さんの設立当初からの想いは、「Dining Hall Yamayuri」の設計にも変わらず受け継がれています。

※吉阪隆正……大学セミナーハウス全体の設計を手掛けた建築家

ainoha 2017*october-05



やまゆり外観



左から 嶋田幸男さん(七月工房)、齊藤祐子さん(SITE)、今井隆明さん(大学セミナーハウス)

地域にひらいた施設へ

大学セミナーハウスでは宿泊利用者の他にも、日帰りセミナーや見学で来訪された方に「Dining Hall やまゆり」をご利用頂いています。「はじめて食堂に来る方はもちろん、リピーターからも『この景色は初めて見るね!』という声をたくさんいただきます。今後は、教員と学生の皆様はもちろん、社会人や地域の方々に大いにご利用いただけたら嬉しいですね」と広報の今井さん。

これからこの食道棟をきっかけに、地域のいろいろなつながりが生まれていくと思うと今から楽しみです。



ピュッフェや定食の他にも、パーティメニューも注文できます!主菜からデザートまで美味しい料理をお腹いっぱい楽しめます。お誕生日会や懇親会などにオススメです。



お昼時の様子。夏休みを利用して研修や合宿に来ている大学生たちがたくさん!とってもぎやかです。



取材後記

今回の取材では、設計者のお二人と大学セミナーハウスの方々、調理師さんなどたくさんの方にお話をお聞きでき、とても貴重な機会を頂きました。その中でも職人さんたちの技術力や工事中の現場を取りまとめた荻野監督の活躍に改めて感動しました……!地域の職人さんの手と地域の材を使ってつくる木造施設。その魅力を「Dining Hall やまゆり」を通してたくさんの方に知って頂けたら嬉しい思います。(記:広報 吉川)

設計:七月工房+SITE+アトリエ海+山辺構造設計事務所+長谷川設備計画／施工:相羽建設
竣工写真撮影:北田英治(表紙、p2-3、p4、p4-5)

撮影取材:荻野・伊藤・吉川 ainoha/バックナンバーはこちら→<http://aibaeco.co.jp/photo/ainoha/ainohabackno/>



▲ 現場を指揮した荻野監督



特集 その後どのように過ごしていますか？

まつぼっくり保育園



take free
ご自由にお持ち帰りください

2016 * October vol.58

特集 その後どのように過ごしていますか？

まつぼっくり保育園

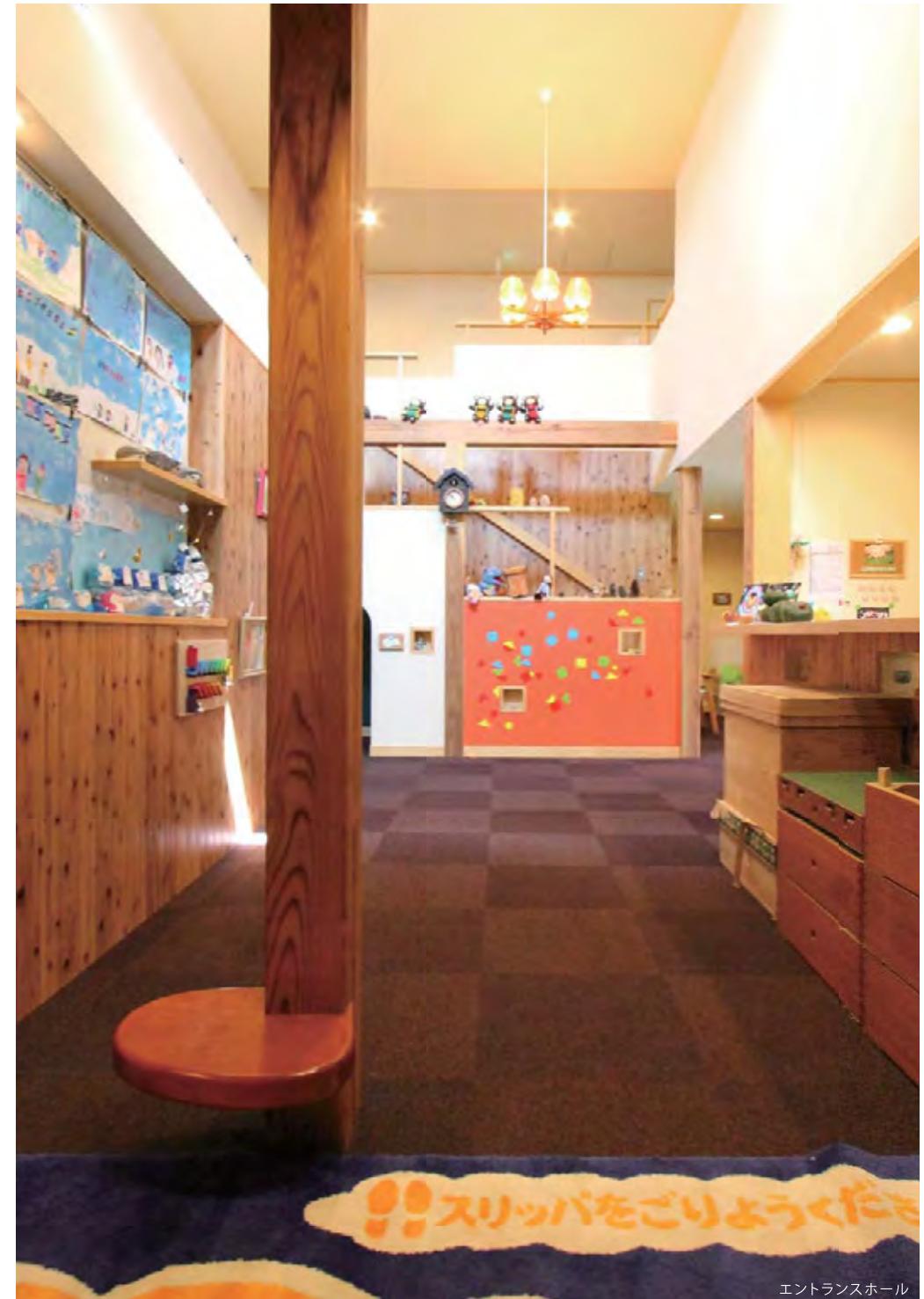
東京都羽村市 | まつぼっくり保育園 | 木造施設



1 ストーリー

今回紹介するのは、羽村市にある「まつぼっくり保育園」。こちらは築45年のRC造の建物から、2015年の春に新しく木造施設へと建て替えられた保育施設です。完成から1年が経ち、子どもたちや先生は新しい園舎でどのように過ごされているのでしょうか？

門をあけると奥から聞こえてくる、子どもたちの元気な笑い声。わくわくしながら建物の中へ入ると、エントランスホールにはチョーク作家さんの作品や子どもたちの絵が展示されていて小さな美術館のようになっていました。所々に無垢の木が使われていて、やわらかい印象にほっとする空間。どのようにしてこの場所がつくられたのか、園長の橋本先生にお話を伺いました。



エントランスホール

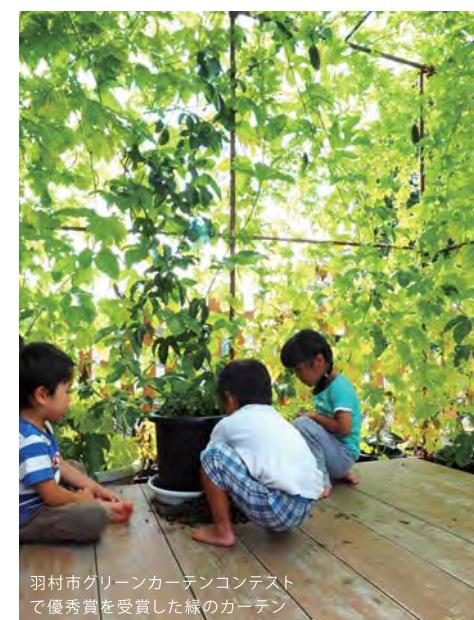
ainoha 2016*october-03

2 大きな家のような場所へ

「園長先生の考える保育園ってなんですか?」。

これは計画当初、設計担当の袴田喜夫建築設計室さんからの最初の質問だったそうです。「その時はまさか自分の想いがかたちになるとは思いもせず、"こんな保育園にしたい……"という希望をいくつかお話しました」と園長先生。その中のひとつが"大きな家のような場所"でした。一日の中で自宅よりも保育園で過ごす時間の方が長い。これは保育園に通う子どもたちだけではなく、ここで働く先生たちにとっても同じことが言えます。「せっかくなら施設ではなく、ちょっと大きな第二のわが家としてリラックスしながら過ごしてもらいたい」。"大きな家のような場所"とはそんな園長先生の想いが込められたものでした。そこから材料は身体にやさしい自然素材を使ったり、教室の天井を住宅と同じスケールにして安心感を出したり、普段過ごしている家に近いかたちの園舎が完成したのです。

今では0~5才児の80人以上の子どもたちが通い、40人の先生たちが働いているまつばっくり保育園。園全体が先生や子どもたちの明るい笑顔であふれていました。



羽村市グリーンカーテンコンテスト
で優秀賞を受賞した緑のカーテン



隠れ家図書スペース



ainoha 2016*october-05



食堂にOMソーラーのダクト



食堂へ向かう前のプチ運動!
体幹を鍛え丈夫な身体へ



3 食べて育つ

「子どもたちの豊かな発想力や自発性を育みたい」。そんな園長先生の想いのもと、ランチタイムにはちょっと変わった工夫がありました。3~5才児の子どもたちはバイキング形式で、食堂で座る場所も自由に選べます。自らご飯をよそうことで、自分の食べられる量を知り「次はこのくらいの量にしよう」と学び、考える力が育れます。また器も樹脂ではなく、落としたら割れてしまう陶器のお皿をあえて利用することで「物を大切に扱おう」という気づきにもなっているそうです。

4

一緒に過ごして、一緒に育つ

0~5才児の子どもたちが自然に交流できるようにと、中庭をはさんで各年齢の教室が向かい合せになるように設計された園舎。年上の子が何かに取り組んだり、助け合ったりする様子を年下の子が見て覚えたり、先生たちも担当クラス以外の子どもたちとの交流があることで、名前はもちろん、どんな子たちがいるのか把握でき、園全体で子どもたちを見守ることができます。ひとつの大きな屋根の下、大人も子どもも楽しそうに笑顔で過ごしている様子は、まるで大家族のようなあたたかさがありました。



中庭では年齢の異なる子どもたちが一緒になって遊びます

取材後記



まつぼくり保育園が完成したばかりの頃、竣工写真を撮りに一度こちらへ訪れました。まだ家具が入る前だったので「これから子どもたちがどんなふうに過ごすのだろう?」とずっと気になっていたので念願の取材をさせて頂くことができ、とても嬉しかったです。園長先生の想いや、先生や子どもたちのキラキラした笑顔にたくさん元気をいただきました!

(記:広報 吉川)

 奴田喜夫建築設計室→ <http://www.atelier-y-a.com/>
取材:伊藤・吉川・小俣…取材後記はコチラ→ <http://ameblo.jp/ainohablog/>